

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

2000.8.3

№175

国労臨大と国鉄闘争の展望

◎中野 洋 (7・15動労千葉を支援する会での報告より) 下



(五一七四号よりつづく)

もちろん、向こう側は権力をとっている。だから闘う時には向こうの弱点はどこにあるかを見極めて、そこで戦争をやらなかったら勝てるわけがない。

今、最大の弱点はJR東日本に集中しています。労使関係が完全に解体し始めています。

動労千葉にだってJR総連から組織拡大をはかる展望がある。JR総連にいた方が主任職に早くなれる。5%のボーナスアップはもらえる。でも、労働者、労働組合というのは、それだけじゃない。やっぱりどこかで清く正しく生きたいと思っている。動労千葉に来れば清く正しく生きられます。これが逆に強さになっていくんです。

組合員に依拠して闘おう!

もうひとつは、労働組合なんだから、誰に依拠して、誰と一緒に闘うのか。そこをはっきりさせるということ。政府・自民党に依拠してはダメ。労働組合が依拠

するのは組合員、それと支援してくれる多くの労働者です。ここに依拠する以外にないんだということ。これを忘れるなということ。

労働運動の要求は 力関係で決まる!

労働者の要求というのは、力関係によってしか決まらないということをはっきりさせることなんです。

「四党合意」を粉砕すれば「解決水準」が上がると言ったのは、「四党合意」の受け入れをいったん粉砕したということは、国労が自分たちの力を発揮した初めての事なんです。国鉄労働組合は、本当のもっている力を発揮していない。それは五十数年間の歴史で総評を動かしてきた労働組合だから、比較にならないほど力をもっている。国労はブランドです。その力をいかんなく発揮したときに初めて敵と対抗できる。しかし、こういうことを国労はやったことがあるのか。

今回初めて、「四党合意」粉砕の闘いを通して、国鉄労働組合が自分たちの力を行使し始めた第一歩です。これで止まったらダメです。これから本当にありとあらゆることを含めて力を発揮することです。支援組織だって完全に再編課程に入っています。逆にもう一回再編しもっと大きくしていくことを真剣にやったら、無限大の力を発揮する。その時に初めて敵は譲歩するんです。言いたいことは、敵は困らない限り絶対に譲歩しない

ということなんです。今回もそうです。多少金はよすかもわからないけれど、その場合には国労の看板を下ろせということになるに決まっています。

そういう意味で、「四党合意」粉砕は「解決水準」が上がると言っているんです。これは真理だと思えます。

動労千葉は闘いの前面に起つ!

動労千葉は新DC会館をつくりました。余裕があったからこそこういうことをやったわけではありません。動労千葉だって分割・民営化以降、組合員の平均年齢も高くなっている。やはり本気になってもう一回動労千葉に新しい血を集めていくということをやらなければならぬ。新しく会館を建設してやっていくことが決定的に重要なのではないかとこのことを考えてやりました。これをステップにし、なんとしても今年中に当初の目的を達するような体制をつくりたいと思っています。核心は、やはりJR総連解体・組織拡大です。

闘いのメインテーマ!

国鉄闘争の展望!

一〇四七名闘争は始まりから一〇年間続き、こういう情勢を切り開いている。だから逆に言うとなんとしてもこの闘いに勝たなければいけない。

連合・全労連の傘下を問わず、真剣に労働運動のことを考え、労働者のことを考えている人たちは皆、国鉄闘争を応援しています。



だから、国鉄闘争の勝利は、闘う労働運動をどういうふうにもう一回つくっていくかという運動し表裏一体、密接不可分の関係にあります。その運動が前進する度合いに応じて、国鉄闘争の勝利の度合いが決まっていくという関係、相互規定の関係にあります。国労や動労千葉が中心となった運動がどんどんひろがっていくことは敵に脅威になるわけです。そういう意味で、一月の三労組が呼びかける集会に、今年は何んとしても五千人を集めたいと思います。今年の一二月は国鉄闘争がメインになるでしょう。動労千葉としても、全国にむかって、国鉄闘争をめぐって何が起きているのか、なにをなすべきなのかを訴えていこうと思っています。